

NISSHA 株式会社
「2022 年 12 月期 Q2 WEB 決算説明会」
質疑応答の要旨
(2022 年 8 月 8 日開催)

Q1. H1 の実績が前回予想より上振れた要因は何か。

A1. 産業資材事業、メディカルテクノロジー事業の製品需要の上振れ、デバイス事業の製品需要の平準化による生産効率の改善、為替の効果によるもの。

Q2. デバイス事業において、供給制約の影響はどのようなものだったか。

A2. タブレット向けの製品需要が供給制約により H2 に後ろ倒しになった。後ろ倒しになった製品需要と例年の需要トレンドにより Q3 の需要がピークになる見通し。

Q3. どのような分野で販売価格の値上げが難しいか。

A3. 医療機器やモビリティなど、業界によっては値上げが難しいところがある。このような分野は売上高の成長実現と自助努力による原価低減が重要になる。

Q4. H1 でどの程度の為替影響があったか。

A4. 前年同期比で、売上高で約 40 億円、営業利益で約 5 億円のプラス効果があった。

Q5. 為替影響が大きい事業はどこか。

A5. メディカルテクノロジー事業と産業資材事業の一部の製品。

Q6. 為替感応度はどの程度か。

A6. 今期の残り 6 か月間（7-12 月）の為替感応度は 1 円/米ドルの変動につき売上高で 3 億円、営業利益で 0.4 億円程度。

Q7. H1 のその他の営業利益が前回予想の▲1,400 百万円から▲846 百万円に改善した理由
は何か。

A7. 売掛金などの評価による為替差益の影響。

Q8. H1 の営業利益 6,267 百万円に対して、税引前利益が 9,549 百万円になっている理由は
何か。

A8. 現預金（外貨）の評価による為替差益の影響。

Q9. H2 に向けてメディカルテクノロジー事業の収益性をどのように改善するか。

A9. 生産自動化など効率性の改善に加えて、購買価格の低減に努める。

以上